



浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2025年9月1日

9月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

「選択」の幅を広げる

7月30日、相模湾に、東日本大震災以来となる「津波警報」(*3.11の際は大津波警報)が発表されました。ちょうど出張で市役所に向かっていた私はすぐに学校へとUターンしました。一中通りやラチエン通りを北へ向かう車列が見る見るうちに滞っていく様子を横目に見ながら学校に到着すると、すでに放課後児童クラブや地域の皆さんなど、多くの方が学校へ避難し始めていました。津波到達予想時刻である11時には、200名程の方が、エアコンが設置されている中棟及び北棟の3階の7つの教室に分かれて避難している状況となりました。(*本年度の工事で、次年度からは全ての特別教室にもエアコンが設置されます)。愛犬や愛猫なども一緒に避難(*部屋を分けて)でしたが、市の配備職員の運営の下、皆さん落ち着いて行動され、混乱は生じませんでした。当日は、音楽クラブの活動もあったため、20人近い児童も学校に足止めとなりました。また、子どもだけで避難してきた児童も4名いました。

駆け付けてくださった行政や地域の防災関係の皆様の見守る中、午後になると少しずつ引き上げが始まり、市が18時30分過ぎに避難所閉所の決定をしたタイミングで、避難者は「0」となっていました



(*児童に関しては、運用上、警報解除までは、任意でのお迎え)。センセーショナルな一日ではありましたが、大きな被害が無く、無事一日を終えられたことは幸いでした。

今回の「津波警報」で感じたのは、「判断」と「選択」の大切さです。「判断【judgement】」とは、多くの場合、差し迫った状況の中で物事の善し悪しなどを見極めた上で自分の考えを定めることであり、「選択【select】」とは、判断に基づき、複数の選択肢の中から目的に合うものを選ぶことです。今回のことに当てはめると次のようになるかと思えます。

- ①気象庁にとっての「判断」は、発表を注意報とするか警報とするか、その判断に基づく「選択」はどこの地域にいつまで警報や注意報を出すか
- ②当該の区域に住む人にとっての「判断」は、避難するか否か、その判断に基づく「選択」は、「避難するならどこにいつまで避難するか」

こうした状況の中、自分たちだけで学校に避難してきた子どもたちもいました。「津波警報なので、家以外の高台に避難する」(「判断」)→「近所で避難できる高い建物は小学校」(「選択」)をしたわけです。もちろん、「家の外には避難しない」という「判断」をした子どもたちもいます。気象庁の発表を含めて大切なのは、「判断」や「選択」が結果として正しかったのか、そうでなかったのかではなく、統計や経験に基づいた、瞬時の「判断」やそれに基づく「選択」ができたかどうかです。

どんな選択にも、間違いはない
唯一の間違いは、選択しないことである

[No choice is the wrong choice as long as you make a choice.
The only wrong choice is choosing not to make one.]

ジェイク・アベル

まずは「判断」し「選択」できる力が求められます。そのためには、『転ばぬ先の杖』だけでなく、日頃から意図的に子どもたちに「判断」「選択」を委ねる場面を設定していくことが求められます。

そしてもう一つ。実際の選択場面においては、『子どもも大人も知っているものの中からしか選べない』ことも事実です。ですから、ただ選択を委ねるのではなく、日頃の生活において、「選択」の幅を広げることを意識し、知識や知恵に触れる機会を保障していくことが、子どもたちの人生を豊かにする大人の責務と考えています。